

⑨

B

二〇二六年度

国

語

問題冊子(一～一三ページ)

注意事項

- (一) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (二) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (三) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (四) 解答用紙左下に印刷してある受験学部・学科コード、受験番号、氏名(カタカナ)を確認し、氏名欄に氏名(漢字)を記入すること。もし、印刷に間違いがあった場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。

〔解答用紙記入例(選択式の場合)〕

例一：〔語群〕が二桁で	11 大阪
13 長崎	12 佐賀
14 東京	とある場合

例二：〔語群〕が一桁で	1 大学
3 高校	2 中学校
4 小学校	とある場合

問 X		
16	17	A
/	2	
18	19	B
/	4	
20	21	C
/	/	

Aの解答が佐賀の場合 → 17
 Bの解答が東京の場合 → 19
 Cの解答が大阪の場合 → 21

問 X		
51	/	a
52	4	b
53	2	c

aの解答が大学の場合 → 51
 bの解答が小学校の場合 → 52
 cの解答が中学校の場合 → 53

〔一〕

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

「漢字があるから校^a正作業もあるんです」

きつぱりと言いつ切ったのはベテラン校正者の小駒勝美さんだ。

——漢字がないところには校正もない、ということですか？

私がたずねると、小駒さんは「そうです」とうなずいた。

「英語圏などでは文字や記号が単純なので、字形の問題ありません。校正といっても印刷工の副次的な作業なんです。私たちは漢字を使っているから、出てくる問題点がいっぱいある。漢字の字形の問題もあるし、送り仮名、それからルビの問題。ルビなんて誤植の宝庫ですからね」

確かに英語のアルファベットは二六文字しかない。日本語にはひらがな、カタカナに加えて漢字があり、時として英語のアルファベットなどを文中に使う。文字種だけでも比較にならないのだ。

漢字ゆえの校正。まるで漢字が校正を生んだかのようで、漢字の中でも「災い」（『校正の研究』）とされるのは誤字である。誤字の訂正こそが「校正本来の職務または目的」であり、「つねに警戒してこれを摘発し、見落すことのないやうにせねばならない」と念を押されているのだ。誤字を摘発するには、まず「誤字」とは何かを知らねばならない。そこであらためて漢和辞典で「誤字」を調べてみると、こう語釈されていた。

異体字の一種。

（『角川 大字源』）

誤字はただの「誤った字」ではなかった。それは「異体字」のひとつ。「本来、その使用は望ましくないが、通用してしまっているもの」らしいのだ。いわゆる慣用ということ、一体、誰にとつて望ましくないのか。^b

疑問を覚えた私は早速、同書のハンレイを確認した。すると「異体字」とは「親字と同音同義に用いられる漢字」と定義されている。「親字」とは辞典の見出しになっている字で、同書の場合は内閣が告示した「常用漢字」や「教育用漢字」「人名用漢字」、そして「和漢の古典の読解に必要な多くの漢字・国字」から構成されている。それらの親字と同じ読み、同じ意味で使われるが、字体の異なる字を異体字と呼ぶらしい。一般的に異体字は次のように分類される。

- ・ 俗字
- ・ 古字
- ・ 別体字
- ・ 誤字
- ・ 本字

誤字以外でよく耳にするのが「俗字」である。実例を調べてみると、私の名字「高橋」の「高」も俗字だった。戸籍に「高」と記されていたので、仕事上も由緒正しく、正式名として「高」を使っているのだが、同書によると「俗字」とは「本字の字形が長期の使用の間に省略され、また、崩れた形で流布し定着してしまっているもの」。正式のつもりが、世俗にもまれて「高」だったのである。同様に「氷」も俗字らしい。本当は「A」に水と書いて「冰」と表記すべきなのに、崩れて「氷」になったそうだ。

「氷」は間違っていたのか。

私はびっくりした。そういえば私はよく「氷」を書き間違えていた。「永」と混乱して点の位置に迷ってしまうのだ。間違えていたのは私ではなく字のほうだったのか。ちなみに「隣」も俗字。本字は「鄰」で、俗にまみれて左右反転してしまったらしい。

次の「古字」とは、中国で最初に編纂された字典『説文解字』に「シヨ シュウ^{へんさん}されていた字を楷書形にしたものらしい。これは「古い字」ということで納得できるのだが、その次の「別体字」はよくわからない。略して「別体」、あるいは「或体」「同字」「動用字」などとも呼ばれているようで、「別の系統で成立しながら、親字と同音同義であるもの」(『角川 大辞源』)だとか。漢字はヘン(偏)とツクリ(旁)が流動するらしく、「峰」の「山」が上に移動して「峯」になったり、「略」の「田」が動いて「畧」になったり、「裏」の「里」

が横にスライドして「裡」になったりする。実は「和」も本字は「味」で、ヘンとツクリが入れ替わったらしい。この字は「口」を「禾（加える）」ということ、調子を合わせる」ことを意味しているそうなのだ。「或体」というだけあって人を「或^{わく}或」（まどうさま）させるように漢字は動く。動きながらも「同字」の関係にある「別体字」なのだそう。同字で別体字。同じなら別ではないような気もするが、

B。実は辞書によって分類は異なるようで、例えば、『旺文社 漢和辞典 改訂新版』は「笑」を本字の「笑」の誤字だと断定していた。「笑」とは植物の「あざみ」。その音（シヨウ）を借りて「わらう」という意味に用いたらしいが、「くさかんむり」を「たけかんむり」と間違えて「笑」になった。そこに「くち（口）へん」を付け、「たけかんむり」も崩れて「咲」ができたとのこと。「笑」と「咲」はどちらも「わらう」という意味の同義語とされているが、どちらも間違いが重なってそうなったらしい。

いずれにしても本字を誤ったのが誤字とされるのだが、驚くべきことに本字もまた異体字のひとつなのだ。「漢字の成り立ちからいって正字形とすべきもの」（『角川 大字源』）である「本字」が異体字ということは、どの親字も正しくないわけで、そうなる

C のようにすべてが誤字に思えてくる。崩れたにせよ、ヘンやツクリが動いたにせよ誤字。日本では戸籍係の書き癖や写し間違いから数多くの誤字が生まれたそうだが、たとえ正しい形でもすべては誤った字。異体字のひとつとしての「誤字」ではなく、広い意味で文字はすべて誤字ではないだろうか。

もしや「文字」という文字も誤字かもしれない。

あらためて調べてみると、「文字」とは「文」と「字」のことだった。『学研 漢和大字典』によると、「文」とは「紋様の紋」と同系の言葉で、「物の形を模様ふうに描いた絵もじ」のこと。単体で何かを表わしているもので「水」「牛」「犬」「門」などが「文」なのだ。一方の「字」とは、「滋^じ」（ふえるの意）と同系で「既成の絵もじを組み合わせて、ふやしていった後出のもじ」を指すらしい。「文」を組み合わせて「汁」「物」「嗅」「間」などという「字」をつくる。つまり「水」は「字」ではない。^f「水」という字を書いたなどと使うと、それこそ誤字になるのだ。

なんにも知らなかった。私は^{ぼうぜん}呆然とした。文筆を生業としながら、あまりの無知に呆然としたのだが、念のために「呆然」を調べてみると、「呆然」は漢語ではなく日本固有の熟語だった。「あつけにとられるさま」（『角川 大字源』）を意味するそうで、何や

ら漢字世界に対する私のシンキョウ^ハにじっくりとくる。

呆然として漢字を見つめる。かの正岡子規^gも亡くなる前年にビョウショウ^ニでこう記していた。

余は漢字を知る者に非ず。知らざるが故に今更に誤字に気のつきしほどの事なれば余の言ふ所必ず誤あらんとあやぶみし

〔墨汁一滴〕

自分は漢字を知らない。知らないからこの期に及んで誤字に気がつく、と嘆いていたのである。俳句を発表するたびに読者などから誤字を指摘されたいが、彼は指摘に対して感謝を述べていた。余命わずかでも「一日なりとも漢字を用ゐる上は誤なからんを期するは当然の事なり」と記したのである。

文筆家の矜持^{きやうじ}。私も学ぶべき心得なのだが、「誤なからん」とするには何を拠り所にするべきなのだろうか。「字画の正しい字」、すなわち「正字」こそが答えとなるはずなのだが、「正字」は次のことも意味していた。

官名。文字の誤りを正す。

〔全訳 漢辞海 第四版〕

実は正字とは役職の名。北齊^{ほくせい}から明^{みん}の時代に図書^{ほくせい}の管理を行なう役所（秘書省）におかれた役職で、要するに校正者のことだった。中国には異体字を含めて八万を超える漢字があるそうだが、当時は「科挙」という人材^ホトウヨウの試験制度があり、文字の正誤を定める必要があつたのだ。文字自体が正しいわけではなく、誰かが正しいと決めている。誤字の対義語は正字という名の校正者だったのである。

——高橋秀実「ことばの番人」による——

問一 傍線部 a「校正」とは何をすることか。本文中から最も適当な箇所を五字で抜き出して記せ。

問二 傍線部 b「誰にとつて望ましくないのか」について。「誰」にあたるものとして最も適当なものを傍線部より後の本文中から十字で抜き出して記せ。

問三 空白部 A に入るヘン(偏)の名称をひらがなで記せ。

問四 傍線部 c「間違えていたのは私ではなく字のほうだった」の説明として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

1 著者は「氷」を正しい字形であると勘違いしてきたが、「氷」は「永」という表記の一部を省略して使われてきた俗字であり、正しい点の位置に迷うのが当然だということ。

2 著者は「氷」と書く際に点を書き忘れることがよくあったが、「水」と表記する方が漢字の成り立ちからみると実は正確だということ。

3 「氷」と「永」はいずれも「冰」の表記が崩れてできた俗字であるため、著者が記憶の中で混同していたことを誤解だとは言えないということ。

4 著者は「氷」と書くとうとして誤った位置に点をうつことがあったが、ツクリに点のない表記が本字だとすれば、「氷」がそもそも間違いから生じた表記であるということ。

5 「氷」と「永」の点の位置をめぐり混乱した著者が書き間違えた表記でさえも、長い時間をかけて人々に定着すれば正しいものとして認識されるということ。

問五 傍線部 d「俗にまみれて」と同じことを述べている箇所を傍線部より前の本文中から十二字で抜き出して記せ。

問六 空白部Bに入る言葉として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 これらの親字と誤字は何が違うのだろうか
- 2 これらの同字と正字は何が違うのだろうか
- 3 これらの誤字と同字は何が違うのだろうか
- 4 これらの或体と同字は何が違うのだろうか
- 5 これらの別体字と誤字は何が違うのだろうか

問七 空白部Cに入る最も適当な慣用句を次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 板挟み
- 2 他山の石
- 3 絵に描いた餅
- 4 ドミノ倒し
- 5 どんぶり勘定

問八 次の文章は傍線部e「広い意味で文字はすべて誤字ではないだろうか」を説明したものである。(①)・(②)・(③)に入る最も適当な語の組み合わせを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

「笑」は「笑」という(①)の(②)を間違えてできた誤字であり、そんな「笑」が変化してできた「咲」もまた誤字である。つまり、「笑」や「咲」のように(③)として漢和辞典の見出し語になっているものも正しいとはいえないのである。さらに(①)も異体字に含まれることを考え合わせると、使用が望ましくないとされる誤字だけでなく、あらゆる漢字は正しくないのではないかと推測できる。

- | | | | |
|---|------|----------|-------|
| 1 | ① 古字 | ② ツクリ | ③ 別体字 |
| 2 | ① 親字 | ② ヘン | ③ 同字 |
| 3 | ① 本字 | ② くさかんむり | ③ 親字 |
| 4 | ① 本字 | ② ツクリ | ③ 俗字 |
| 5 | ① 古字 | ② たけかんむり | ③ 親字 |

問九 傍線部 f 「水という字を書いた」などと使うと、それこそ誤字になる」について。挙げられた例文を著者の考えに従って誤

字にならないようにするとどうなるか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 「牛という字を書いた」
- 2 「水という滋を書いた」
- 3 「牛という紋を書いた」
- 4 「水という文を書いた」
- 5 「汁という滋を書いた」

問十 傍線部 g 「正岡子規」を中心として明治三十年に創刊され、夏目漱石の小説「吾輩は猫である」が掲載されたことでも知られる俳句雑誌を次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 明星
- 2 アララギ
- 3 ホトトギス
- 4 文藝春秋
- 5 赤い鳥

問十一 次の各項について、本文の内容と合致するものには1を、合致しないものには2をそれぞれ記せ。

1 著者は、漢字があるために校正があると述べるが、漢字の字形とかかわる校正作業の煩雑さは日本固有の問題であると述べていない。

2 著者は、ヘンやツクリの位置が移動した別字体と誤字との間に大きな違いはないと考えている。

3 著者は、複数の辞典類にみられる具体的記述を調査し、字画の正しい正字を決めることはできないと結論づけている。

4 著者は、「漢字があるから校正作業もあるんです」という小駒勝美さんの言葉を検証するため、漢字が用いられていない文章についても具体例をあげて考察している。

5 著者は、正しい字画の正字を内閣の告示によって定め、漢和辞典の見出しに用いることを推奨している。

問十二 傍線部イ、ホを漢字に直し、正確に記せ。

〔二〕

次の文章は、落人として追われている山伏姿の源義経(判官)が、山伏姿の武蔵坊弁慶や稚児姿の奥方らとともに、奥州へ向かうため関所を通ろうとしている場面である。読んで、後の設問に答えよ。

関の者どもの中に、大人^aしき者申しけるは、「面々^{*}しばし静まり候へ。もし判官にてもなき山伏を殺しても、後の大事なり。

先づ関賃^{*}を乞ひて見よ。昔より今に熊野、羽黒の山伏の関賃なす事なきぞ。判官ならば、その仔細^{しさい}知らで関賃を出して通らんと急がるべし。真の山伏ならば、よも関賃出さじ」と申しければ、小賢^dしき者進み出て申しけるは、「詮^{せん}ずる所山伏なりとも、五人三人こそあらめ、十四人の事なれば、いかで関取らであるべき。急ぎ出して通り給へ。鎌倉の沙汰^{さた}所より、権門勢家を言はず、上下の旅人に関賃させて、兵士^{*}米にせよと候へば、関賃出し給へ」と申しけり。f

弁慶進み出て申しけるは、「事新しき事を言はるるものかな。何時^{いつ}の度に山伏の関なす法やある。例なき事は叶^{かな}ふまじ」と言ひければ、関守ども、「さては判官殿にてはなきぞ」といふ者もあり。「世に優れたる武蔵坊などといふ者がかやうに陳じける」と言ふ者もあり。

「さらば鎌倉^{***}へ早打にて尋ね申さん。その御左右^{おんさう}の間、これに留め置かん」と言ふ者もありければ、弁慶申しけるは、「鎌倉へ^h

御申しこそ、しかしながら金剛童子の御憐^{あはれ}みにて候へ。関東へ御使ひ上下の間これにて足を休めんのみならず、関所の兵士米取りて、齋料^{***}にして待ち申さんこそ、心安く喜びなれ」とちつとも騒がず。十挺の笈^{***}を関屋の内へ取入れて、思ひ思ひに休み居たり。

武蔵坊なほも関守を怪しく思ひ、ある関守に問はず語りをぞしたり()。「この幼い人は、出羽の国坂田次郎殿と申す人の公達^jに、金王殿と申して、羽黒山にては随分の人なり。熊野へ年籠^{としも}りに詣で候ひしが、都にて日数なども経て、下るべきが、この幼き人故郷の事恋しがり給ふ程に、雪は未だ消え候はねども、この道に赴きて、如何せんずると嘆かしく候ひつるに、暫く足を休め候はんずる事こそ、喜び入りて候へ」など物語して、藁沓^{わらづつ}脱ぎ、足洗^mひ、寝ⁿつき起きつ、振舞ひければ、「さては判官殿にてはおはせぬぞ。ただ通し参らせよ」とて、関屋の木戸をぞ明けに()。

* 関賃……………関所の通行税

* * 兵士米……………警護の兵士を養うための米

* * 早打……………急ぎの使い

* * * 金剛童子……………修行僧を守護する神

* * * * 齋料……………僧の食事のための費用

* * * * * 十挺の笈……………山伏が背負っている十個の箱

問一 傍線部 a「大人しき」、i「心安く」、j「公達」の意味として最も適当なものを次の選択肢の中からそれぞれ選び、その番号を記せ。

a 大人しき					i 心安く					j 公達				
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
分別のある	体格の良い	無口な	お人好しな	頭が固い	胸がいっぱいで	思い通りで	気楽で	風流で	意外で	出家した人	優れた家来	朝廷の役人	学問する若者	貴公子

問二 傍線部 b「べし」、c「じ」の助動詞の意味として最も適当なものを次の選択肢の中からそれぞれ選び、その番号を記せ。

1 推量 2 可能 3 打消推量 4 打消意志 5 命令 6 禁止

問三 傍線部 d「小賢しき者」が話した内容のうち、鎌倉幕府の命令として語られている部分を本文中から三十字以内で抜き出し、はじめと終わりの三字を記せ(句読点を含む、以下同じ)。

問四 傍線部 e「五人三人こそあらめ」の現代語訳として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 三人から五人であつてほしいのに
- 2 三人や五人ならばよいだろうが
- 3 三人から五人は居るはずなので
- 4 三人や五人くらいは構わないので
- 5 三人と五人を合わせて八人ならともかく

問五 傍線部 f「申しけり」、――「嘆かしく候ひつる」の主語として最も適当なものを次の選択肢の中からそれぞれ選び、その番号を記せ。

- 1 判官
- 2 弁慶
- 3 関守
- 4 坂田次郎
- 5 幼い人

問六 傍線部 g「例なき事」が具体的に述べられている箇所を本文中から十字以上十五字以内で抜き出して記せ。

問七 傍線部h「鎌倉へ御申しこそ、しかしながら金剛童子の御憐みにて候へ」の解釈として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

1 弁慶は、自分が鎌倉幕府まで出向くと関守に申し出て、その間に判官らが体を休めることができるよう金剛童子に加護を願った。

2 弁慶は、鎌倉幕府が自分の願いを聞き入れ関所を通過させてくれるなら、それは金剛童子が護^{まも}ってくれているからだ
と、金剛童子への感謝を述べた。

3 弁慶は、鎌倉幕府が自分たちを関所に留めおくよう指示したことで苦境に立ったが、金剛童子が自分たちを憐れに思い
助けてくれるはずだと信じた。

4 弁慶は、関守が自分たちを鎌倉幕府まで連行しようと考えたのは、実は自分たちの守護神である金剛童子の働きかけに
よるものだと嘘をついた。

5 弁慶は、鎌倉幕府の判断を仰ぐために自分たちを待たせるなら、その間、関所に滞在できることは金剛童子のお恵みな
ので喜ばしいと関守に伝えた。

問八 本文中の二箇所の（ ）には、どちらも助動詞「けり」の同じ活用形が入る。適当な形に活用させて記せ。

問九 傍線部k「給ふ」の敬意は誰から誰へのものか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

1 語り手から金王殿への敬意

2 語り手から金剛童子への敬意

3 関守から弁慶への敬意

4 弁慶から若い人への敬意

5 弁慶から関守への敬意

問十 傍線部m「寝つきつ」を十字以内で現代語訳せよ。

問十一 次の各項について、本文の内容と合致するものには1を、合致しないものには2をそれぞれ記せ。

- 1 関守たちは、山伏を殺すことを禁じる内容の法令が作られたことを知ったばかりだった。
- 2 関守は判官が山伏に身をやつしているのではないかと疑い、山伏の通行税について知っているか確認しようとした。
- 3 弁慶が通行税を出さなかったため、関守たちはみな、彼らを判官とは無関係の山伏集団であると判断した。
- 4 関所の建物で休息を取り始めても弁慶は警戒を解かず、一人の関守に熊野詣をめぐる作り話をした。
- 5 弁慶の話を聞いた関守は、判官が故郷に帰りがっていることを知り、すぐに関所を通過できるよう戸を開けた。

一般選抜(前期日程)

●人文学部(歴史学科, フランス語学科) ●法学部(法律学科)

●商学部(会計専門職プログラム(経営学科), 貿易学科) ●理学部(社会数理・情報インスティテュート)

⑩

B

二〇二六年度

国

語

問題冊子(二～二一ページ)

注意事項

- (一) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (二) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (三) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (四) 解答用紙左下に印刷してある受験学部・学科コード、受験番号、氏名(カタカナ)を確認し、氏名欄に氏名(漢字)を記入すること。もし、印刷に間違いがあった場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。

〔解答用紙記入例(選択式の場合)〕

例一:〔語群〕が二桁で

11	大阪
12	佐賀
13	長崎
14	東京
	とある場合

例二:〔語群〕が一桁で

1	大学
2	中学校
3	高校
4	小学校
	とある場合

問 X	
16 / 2	A
18 / 4	B
20 / /	C

Aの解答が佐賀の場合
Bの解答が東京の場合
Cの解答が大阪の場合

問 X	
51 /	a
52 4	b
53 2	c

aの解答が大学の場合
bの解答が小学校の場合
cの解答が中学校の場合

〔一〕

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

言語は、個を超えて共有できる現象になる。人間社会の場合、環境から、世界から知りえたことを、内界と共有する道具が言語である。そして、言語、論理は、^a因果律を支える機能を持つ。そのために発達してきた。それは、^bある程度の予言性を持つ。たとえば、ぼくは、表皮の数理モデルを作り、言わばコンピューターの中に表皮を構築するというプロジェクトに関わったことがある。その際、そのコンピューターの中の表皮、その底面をデコボコにするという実験をコンピューターの中で行った。すると、コンピューター表皮は分厚くなった。そこで、実際の培養表皮で、その培養器の底をデコボコにしたら、やはり表皮は分厚くなった。数学的論理にはたしかに予言性がある。正確に言えば、予言というより、未知の生命現象を示唆する潜在的能力とでも言うべき機能がある。そのプロセスには個の脳は関係していない。このできごとは、ぼくには衝撃的だった。数学という論理システム、そこにそれだけの潜在力、予言力があるとは、正直なところ思っていなかったのである。

人間は言語によって大きな力を得たが、一方で、言語が人間の知覚——見るもの、感じること——をゆがめている場合があるようだ。

ミントと柑橘系^{かんきつ}の香料成分四種を被験者に嗅がせる。その際に、「レモン」などというにおい物質に関連する単語を見せる。その後、被験者は、「無臭、弱い、中ぐらい、強い」というにおいの強度を報告する。同時に、嗅覚受容に対応する脳の梨状皮質^{りじょう}という場所の応答も、MRIという解析技術で観測する。そこで嗅がせたにおいと同じ単語を提示した場合と異なる単語を提示した場合について、それぞれのにおいの違いを強度で示させた結果、後者、嗅がせたにおいと単語が異なっていたほうがこの違いをより強く感じていた。(1)、同じにおいであっても、付記された単語が違うと、梨状皮質の応答部位が異なることが確認された。(2)、脳でにおいを知覚する場所にさえ、言葉は影響を及ぼしたのだ。

医療におけるプラセボ効果^{*}は、「これは効きます」と言われただけで、人間の身体の生理状態——それは免疫系、内分泌系などさまざまなシステムなのだが——のシステムが作動し、^イシッカン^イなどからの回復を早めるというものだ。このプラセボについて

の報告は膨大にあり、今やその効果を疑う医学者はいないだろう。

言語を発達させてきた人間だが、今やその言語情報が、知覚や身体代謝にまで大きな影響を及ぼすようになっていて。人間という生物は、自ら生み出した言語による時空にとらわれていると言える。^c

そういうわけで、論理、言語は世界を浮かび上がらせる潜在力を有するが、偽りの世界、個の真摯な働きかけを停止させる粗雑なフィクションも作る。多くの個の働きかけがそのフィクションにとらわれると、そのフィクションが持つ力は強くなる。疲労した肉体は、粗雑なフィクションに働きかけを委ねてしまう。それは、疑うこと、Aをくり返すことを放棄した個や社会に起きることだと思う。

一人の人間は、さほど悪ではない。悪にはなれない。ぼくはそう信じている。近年の研究は、人間が生まれつき、他者と協力する、譲り合う性質を持っていることを示している。通常、人間は、なんの恨みもない他者に危害を加えることに躊躇する。^{ちゆうちよ}これは人類が進化の過程で確立してきた本能だと思う。そうでなければ人類は集団生活を営めなかっただろう。

五万年ほど前、ネアンデルタール人との間に現生人類は子どもを作っている。その子どもは、現生人類の集団の中で育てられ、子孫を残したようだ。なぜ、ネアンデルタール人が滅び、現生人類が生き残ったのか、その理由はわからない。ただ、現生人類の集団が、より強い結束力、相互を信頼する心を持っていたことは間違いないと思う。ネアンデルタール人の化石はヨーロッパ周辺でしか発見されていないが、現生人類の集団は、オーストラリア、アジア、おそらくベーリング海峡を経て南北アメリカ大陸にまで広がったからだ。

そのように、本来、相互の信頼関係を維持する性質があった人類が、簡単に狂ってしまう場合がある。^dそれは言葉によって作られた場のためだ。

旧石器時代から宗教的な営みがあった形跡は、世界各地にある。かつて、人類は、人智を超える存在を、神を信じ、自らの平安のために、それにクモツを捧げたり、自らの行動に制約を施したりしていた。ジュリアン・ジェインズによれば、聖書や神話など、古い起源を持つ文献を調べてみると、およそ三千年前まで、人類に自己意志はなかった。それまでの歴史では、人間の意

識にささやかけるものは神の言葉だと考えられていたという。紀元前五百年ごろから、釈迦^{しやか}や孔子、ギリシャの詩人や哲学者、聖書の予言者など、人類の運命を語る人間が世界各地に現れた。おそらく、この時代から、人間は自身の運命について、自身で考え始めたのである。

デヴィッド・グレーバーは、『負債論』の中で、この時期、中国の黄河流域、インド北部、エーゲ海沿岸部で^ハチュウゾウ貨幣が発明されたと指摘している。そして、それは人間の間での「信頼」とでも言うべき無形のなにごとか、それを貨幣という数量として換算できるものに変えた、その起源だと指摘している。これは重要な視点だと思う。自身の運命について、神に頼らず、自身で考える、なすべきことを模索する。それは人間個人の意識を^ニキソンの価値観から解放するきっかけであったろうが、一方で、言語化できない、言語で簡単に解釈すべきでない人間関係ですら、数値、ひいては金銭で評価しうる、金銭であがなえるという虚構につながるからだ。

個人の意識の確立は、Bな宗教的儀式などから人間を解放し、より合理的な教条を持つ世界的な宗教や、自然科学的な思想をもたらしただろう。しかしながら、その一方で、たとえば、宗教的な心情が異なる人々、民族を排除する、殺戮^{さつりく}するという歴史が始まったのも事実だ。人間が、自分で考えたことが世界の意志、正義とでもいうようなものであると、Cに
なり始めたのである。

有史以来、さまざまな宗教があった。それらのあるものは、^{**}ドグマで人間を拘束するものだったろう。しかし、長い歴史を持ち、世界的に信仰が広まっている宗教は、むしろ、人智の及ばぬ世界の存在を示唆し、人間の浅はかな論理では見えないなにごとかを示唆して、人間の傲慢を戒めるものだったと思う。たとえば、セーレン・キルケゴールは、人間が絶対に触れることができない、知ることができない神の存在によって、個の自由がもたらされることを示した。そのような神が存在した頃、むしろ、人間は、世界に対して慈しみと敬意を持って接し、それは穏やかで優しい生活であったろう。

^eかつて、人智が及ばない神の存在を信じてきた時代には、人間は、むしろ、幸福であった。少なくとも信仰がある限り、自分の存在について不安を感じることはなかっただろうと思う。ところが、まずガリレオ・ガリレイが望遠鏡で天体を眺

め、どうやら地球のほうが動いているらしい、と考え始めた頃から、キリスト教の信仰がゆらぎ始めた。それが産業革命で怪しくなり、それまでは「神の創造物」として敬意を持って眺める対象であった自然は、利益を獲得するための資源になってしまった。それまでの科学は、自然を、宇宙を観察するものだった。そこでは壮大な宇宙のしくみに対して、新たな「神の意志」への敬意も生まれえただろう。ところが、蒸気機関の発明などを契機に、科学は自然からエネルギーを、利益を引き出す技術になった。自然は、そのしくみは、人間の利益のために存在するものになってしまったのだ。

かつて、人智を超えた神を信仰していた時代には、人間はそのような傲慢に陥ることはなかった。しかし、近代以降、神への信仰が薄れたとき、人間は、言語的論理、その予見性だけを信じるようになった。人間の意識だけが世界を記述しうる真理だと思ふようになったのである。そこでの活動は、ときには外界の事象に対し予言的でもあった。その予言性の価値のため、人類は内界的意識をより崇拜するようになった。その結果、特に近代以降、意識だけが人間の活動であるという誤謬が信仰されるようになって、意識の暴走が頻繁に他者を、世界を危険にさらすようになったように思う。

人間の言語の危険性は、それが、言わば催眠術のように人間の心、意識を操る力を持ってきた点にある。言語になる前の「意識」は、ぼんやりしたイメージにすぎない。ところが、言語化されたイメージは、個人の中で明確なものになる。それが核になって、くだらない恐れや欲望、^ホヘンケンをも言語化し、それが真実であるような論理めいたものに成長する。そして、それは多くの他者や社会すら動かす力を持つことがある。この百年ほどの歴史の災厄は、そのような言語がひき起こしたように感じる。

人間の、言わば道具にすぎなかった言葉は、その言葉だけで作られた場を生じさせてしまい、その場で人間は傲り、自らを破滅寸前にまで追いやったのだ。

—— 傳田光洋「境界で踊る生命の哲学」による ——

*プラセボ効果……薬として効能をもたない偽薬(プラセボ)を服用し、得られる効果のこと。

**ドグマ……宗教における守るべき教義のこと。

問一 傍線部 a「因果律」の意味として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 原因と結果が相反する要素をもってしまっていること。
- 2 すべての出来事は、ある原因から生じた結果であること。
- 3 一つの言葉と一つの物体の意味を結びつける役割のこと。
- 4 あらゆる生物は、やがて、死を迎える定めであること。
- 5 ある一定の基準のもとで運用される決まりごとのこと。

問二 傍線部 b「ある程度の予言性を持つ」の説明として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 言語、論理を活用することによって、ありとあらゆる出来事を想像することができるということ。
- 2 言語、論理は、それを用いることで、未知の現象を推測することができる機能をもつということ。
- 3 言語と論理を組みあわせることで、具体的な情報に加え、抽象的な情報も扱うことができるということ。
- 4 言語は、それを丁寧に積み上げることで論理になり、論理は、人を説得する機能をもつということ。
- 5 言語と論理を巧みに操ることで、知るはずのない未来を知っているかのように言うことができるということ。

問三 (1)・(2)に入る最も適当な言葉を次の選択肢の中からそれぞれ選び、その番号を記せ。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|------|---|------|---|----|
| 1 | しかし | 2 | ただし | 3 | つまり | 4 | ところで | 5 | なぜなら | 6 | また |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|------|---|------|---|----|

問四 傍線部 c「人間という生物は、自ら生み出した言語による時空にとらわれている」とは具体的にどういふことか。最も適当

なものゝ次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 同一の言語圏の人々としゝか意思疎通がでゝなくなつてしまふこと。
- 2 他者が使う言葉によつて、愉快になつたり、機嫌を損ねたりすること。
- 3 眞実を見抜くことがでゝきず、嘘の言葉に惑わされてしまふこと。
- 4 身体の生理的反応でさえも、言葉によつて変化してしまふこと。
- 5 言葉でしかものごとの是非を判断することがでゝなくなつてしまふこと。

問五 空白部Aに入る最も適当な言葉を次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1 運動と休息 | 2 仮説と検証 | 3 交渉と妥協 | 4 行動と結果 | 5 戦争と対話 |
|---------|---------|---------|---------|---------|

問六 傍線部d「それは言葉によって作られた場のためだ」とあるが、人類が簡単に狂ってしまうこともある場を作りだす言葉の性質とはどのようなものか。それを述べた最も適当な一文をこの傍線部より前の本文中から抜き出し、始めの五字を記せ。

問七 空白部Bに入る最も適当な言葉を次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| 1 天衣無縫 | 2 荒唐無稽 | 3 清廉潔白 | 4 泰然自若 | 5 当意即妙 |
|--------|--------|--------|--------|--------|

問八 空白部Cに入る最も適当な言葉を空白部の後の本文中から漢字二字で抜き出して記せ。

問九 傍線部e「かつて」から始まる段落には次の一文が抜けている。これを挿入するのに最も適当な箇所の直後の五字を抜き出して記せ。

ニュートンは、そんな天体の成り立ちや万有引力なども「神が造りたもうたのじゃ」と宣言して、なんとか信仰は残った。

問十 傍線部f「人類は内界的意識をより崇拜するようになった」の説明として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 言語が発達するにつれて、良いものも悪いものも含め、さまざまな思想や宗教が生まれることになり、人々はそれらを盲信していくことになった。
- 2 未知の現象を示唆する潜在的な能力をもった言語、論理の存在は、人類から宗教への関心を失わせ、自らの考えることだけを信じさせるようになった。
- 3 多くの災厄を経験することで、考える前に行動するのではなく、まずはじっくりと思考してみることが重要であると気づくことになった。
- 4 言語、論理こそが人間であることの本質を支える重要な要素であるものの、人類は、その力に頼ることなく、危険な方向に進むようになった。
- 5 神への信仰が薄れ、言語、論理が未来を予測できるものと信じてしまうことで、言語を扱う人間の思考こそが重要であると考えようになった。

問十一 次の各項について、本文の内容と合致するものには1を、合致しないものには2をそれぞれ記せ。

- 1 人間の知識では決して認識できない神の存在は、人間を幸福にし、他者への敬愛をもった平穏な生活をもたらした。
- 2 神の存在に対する疑念から科学は生まれ、自然を破壊する装置が開発され、人間の利益が追求され続けてきた。
- 3 脳は、言語だけではなく、その人の記憶や、気温や湿度といった周囲の環境の影響も受けて、ものごとを判断する。
- 4 言語は、世界から得た情報を記述することを可能にするだけでなく、人間の心のありかたを左右する力をもっている。
- 5 言語と論理が発達することによって、人間は、自分で考え、自分で行動していくことができるようになった。

問十二 傍線部イ、ホを漢字に直し、正確に記せ。

〔二〕

次の文章は「無名草子」の一節で、二人の女が議論を交わす場面である。読んで、後の設問に答えよ。

「まことに、名を得て、いみじく心にくくあらまほしきためしは、伊勢御息所ばかりの人は、いかでか昔も今もはべらむ。^a

寛平法皇世をそむかせおはしまして、つれづれにて籠もりゐたりけむありさま、聞きはべるなどこそ、たぐひなく、いみじく^{*}おぼゆれ。庭はいと白きものから、苔むらむら生ひて、帽額の簾、ところどころ破れて、神さび、心細げなりけるに、延喜の御^{***}時、若宮の御袴着の御屏風の歌、ただ今詠みてたてまつるべく、伊衡中将の御使ひにて、おほせられたりけるに、^d

散り散らず聞かまほしきに故郷の花見て帰る人もあらなむ^e

と詠みてたてまつりたるほどのことどもなどこそ、返す返す、心も言葉もめでたくおぼえはべれ^f

と言ふなれば、また、

「必ず歌を詠み、物語を選び、色を好むのみやは、いみじくめでたかるべき。何事にも、歌の道に足りぬるばかりは、いみじく^{*}めでたかるべきことやは^g。その中にも、箏の琴は、女のしわざとおぼえて、なつかしくあはれるものの音なれど、

あやしの生女房、童べ、侍などまで、大方よからぬ爪鳴らしして、なべて耳慣らしたるが、いと口惜しきなり。琵琶はなべて弾^hく人少なう、まして、女などは、たまたままねぶを聞くもいとめでたく、心にくく、奥ゆかしくこそはべれ。

博雅三位、逢坂の関へ百夜詣で行きて、蟬丸が手より習ひ伝へたまへりけむほど思ふも、いとありがたくめでたきを、兵衛内^{***}侍と言ひける琵琶弾き、村上の御時の相撲の節に、玄上賜はりて仕まつりたりけるが、陽明門まで聞こえけるなどこそ、いとめ^{***}

でたけれ。『博雅三位だに、かばかりの音は弾きたてたまはず』と、時の人褒めはべりけるほどこそ、女の身にはありがたきことⁱにはべれ。

歌などを詠み、すぐれて、人に褒めらるるためしは、昔も今もいと多かり。これは、いとありがたくうらやましきことにはべ^jり」

など言ふなり。

＊寛平法皇……………宇多天皇の出家後の呼称。伊勢御息所は、宇多天皇との間に男子をもうけた。
 ＊＊帽額の簾……………すだれの一つで、上部に飾り布を付けた。
 ＊＊＊延喜の御時……………宇多天皇の次に天皇になった醍醐天皇が治めた時代。
 ＊＊＊＊爪鳴らし……………指の爪を使って楽器の音を鳴らすこと。
 ＊＊＊＊＊村上の御時……………醍醐天皇の二代後の村上天皇が治めた時代。
 ＊＊＊＊＊＊玄上……………琵琶の名器のひとつの名称。

問一 傍線部 a「まことに、名を得て、いみじく心にくくあらまほしきためし」は、どのような文芸に関する理想的な例をいうか。本文中から三字以内で抜き出して記せ。

問二 傍線部 b「つれづれにて」、g「なつかしく」の意味として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

b					g				
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
一人きりで悲しく	従者を引き連れて	しんみりと寂しく	退屈そうにして	ご一緒になつて	聞き心地がよくて	昔が思い出されて	親しみやすくて	古風な様子で	すばらしくて

問三 傍線部 c「いみじくおぼゆれ」を十字以内で現代語訳せよ。

問四 傍線部 d「おほせられたりけるに」の文法的説明として適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 動詞の未然形＋断定の助動詞の連用形＋過去の助動詞の連体形＋接続助詞
- 2 動詞の未然形＋尊敬の助動詞の連用形＋存続の助動詞の連用形＋過去の助動詞の連体形＋接続助詞
- 3 動詞の未然形＋受身の助動詞の連用形＋断定の助動詞の連用形＋過去の助動詞の連体形＋接続助詞
- 4 動詞の連用形＋尊敬の助動詞の連用形＋存続の助動詞の連用形＋過去の助動詞の連体形＋接続助詞
- 5 動詞の連用形＋受身の助動詞の連用形＋断定の助動詞の連用形＋過去の助動詞の連体形＋接続助詞

問五 傍線部 e「なむ」と文法的に同じ意味の「なむ」を次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 今なんぞ罪なくして死なむやと泣きけり。
- 2 疎まれぬべき所のさまになむ思ひわびぬる。
- 3 おのづから障りも出でまうできなむ。
- 4 人のほととぎす鳴かなむと申しけるあけぼの、
- 5 またたぐひなくなむ思ひ出でらるる。

問六 傍線部 f「心も言葉もめでたくおぼえはべれ」の解釈として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 突然詠むように命じられたにもかかわらず、取り繕いながらも和歌を仕上げた伊勢御息所は優れた人物といえる。
- 2 伊衡中将は、伊勢御息所が詠んだ和歌を聞いて、内容も表現も優れた和歌を詠む人だと思ったに違いない。
- 3 和歌を即座に詠むように命じた醍醐天皇と、それに応じた伊勢御息所とのやりとりは、教養の高さを感じさせる。
- 4 すばらしい和歌を詠むことができた伊勢御息所は、その心も、言葉づかいも、非常に優美な女性と思われる。
- 5 寛平法皇を亡くした伊勢御息所は質素な暮らしをしていたが、それこそ法皇に仕えた人としてあるべき姿である。

問七 空白部には動詞「はべり」が入る。適当な形に活用させてひらがなで記せ。

問八 傍線部h「なべて耳慣らしたるが」の解釈として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 下手な弾き方で演奏された音色を一般に聞き馴染^{なじ}んでいることが
- 2 上手ではないにもかかわらず、得意げに演奏していることが
- 3 身分の上下を問わず多くの人々の演奏を並べて聞き比べていることが
- 4 箏の琴の演奏を聞き過ぎたため、すっかり飽きてしまったことが
- 5 耳が肥えて、音楽を聞き味わう能力が優れたものになったことが

問九 傍線部i「かばかりの音」とは具体的に誰が演奏した音を指すか。本文中から五字以内で抜き出して記せ。

問十 傍線部j「これ」とは何を指すか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 全く聞いたこともない、珍しい話を聞くことができること。
- 2 琵琶を上手に弾くような、滅多にない才能をもつこと。
- 3 どのようなことでもよいので、何らかの名声を得ること。
- 4 今も昔も評判になるような、秀でた歌詠みになること。
- 5 女性でありながら、優れた能力に満ちあふれていること。

問十一 本文の内容と合致するものを次の選択肢の中から二つ選び、その番号を記せ。

- 1 伊勢御息所は、寛平法皇が亡くなったことから、その後を追って死を選んだ。
- 2 身分の高い女性も、低い女性も、箏の琴の演奏は決して上手ではなかった。
- 3 博雅三位は、蟬丸から琵琶の奏法を習ったと伝わる優れた奏者だった。
- 4 優れた歌詠みも、優れた楽器の奏者も、今では珍しい存在になっていた。
- 5 和歌が上手な者は、物語を好み、恋愛の情趣も解する者ばかりだった。
- 6 琵琶を演奏する者は少なく、女性になると、さらに少ない存在だった。

問十二 「無名草子」と同じ時期に成立したものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 浮世風呂
- 2 菅家文章
- 3 去来抄
- 4 ささめごと
- 5 新古今和歌集

一般選抜(前期日程)

●人文学部(日本語日本文学科, 英語学科)

●経済学部(産業経済学科)

●商学部(経営学科)

●スポーツ科学部(健康運動科学科)

11

B

二〇二六年度

国

語

問題冊子(二～一〇ページ)

注意事項

- (一) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (二) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (三) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (四) 解答用紙左下に印刷してある受験学部・学科コード、受験番号、氏名(カタカナ)を確認し、氏名欄に氏名(漢字)を記入すること。もし、印刷に間違いがあった場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。

〔解答用紙記入例(選択式の場合)〕

例一: 「語群」が二桁で	11 大阪
13 長崎	12 佐賀
14 東京	とある場合

問 X		
16	17	A
/	2	
18	19	B
/	4	
20	21	C
/	/	

Aの解答が佐賀の場合
Bの解答が東京の場合
Cの解答が大阪の場合

例二: 「語群」が一桁で

例二：「語群」が一桁で

3	高校	1	大学
4	小学校	2	中学校
とある場合			

問 X		
51	/	a
52	4	b
53	2	c

aの解答が大学の場合
bの解答が小学校の場合
cの解答が中学校の場合

〔一〕

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

ベーコン^{*}は自ら熱の性質に関する研究を行っていて、この研究はかれの帰納的方法を具体的に例示しているものとしてよく知られていますが、かれはこの研究で熱の原因は運動であるという結論に達しています。そして熱の原因である運動について、かれはさらに、比較的小さい分子間の運動であり、物体の中で微分子が互いに阻止され、反発され、撃退される運動をしていると説明しています。しかしこう^aした結論は観察データから普通の直接的な帰納法によって導かれるようなものではないでしょう。

この熱の原因の探究において、ベーコンは熱の存在を示す肯定的事例（たとえば太陽熱、^{ほのお}焔の熱、摩擦熱、動物の体温などを列挙したいわゆる「本質と現存の表」、それらの肯定的事例ともっとも近接した事例でしかも熱が欠如している否定的事例（たとえば月や星の光線、海上で発する燐光^{**}などを列挙したいわゆる「逸脱ないし欠如の表」、さらに熱の程度の変化を示す「程度または比較の表」を作成し、きわめて広範囲に及ぶ多種多様の事例を数多くあげ、それらの事例を一つ一つ詳細に検討しています。この帰納法はつまり「適当な排除と除外によって自然を分析し、それから十分な数の否定的事例を検討したのちに、肯定的事例にもとづいて結論を下す」、そういう方法です。

しかしこうした肯定的事例や否定的事例をどれだけ広範囲にわたって数多く観察し、それらの事例をいかに秩序正しく体系的に整理してみても、何らかの想像力、仮説的推論を用いずには、いま述べたような熱の秘匿^bされた原因の発見にいたることはできないでしょう。微分子間の運動という考えは仮定にもとづくものであり、ベーコン自身もこの種の試みを「知性の自由」と呼んでいるように、それはつまり知性を自由に働かせることによって考え出された仮説です。つまりベーコンは熱の秘匿された原因を説明するために「自分の（ア）を（イ）よりも優先させた」のです。

このベーコンの仮説の方法は、近代科学というものがまだ存在しなかった当時においてはたしかに注目すべき（ウ）的な試みであり、のちに近代科学のすぐれた方法となる仮説的方法の（エ）をなすものといえるでしょう。しかし同時に、それはベーコンの帰納法が科学的方法として不備であることを示すものであることも明らかです。この仮説の方法について、B・フア

リントンはこう述べています——ベーコンは「仮説^cという方法によって自分の課題を暫定的に解こうと試みた。このことをかつてかれは自然の予断として非難したが、こんどは一時的な必要としてそれをみとめるのである」。つまりベーコンはかれの帰納法を用いて熱の原因を解明しようと企てたのですが、しかしその結果、かれは熱の秘匿された原因を説明するという課題に直面してかれの帰納法の不備を知ることになり、そこでかれは自らの課題を解決するための、応急策として、かつては「自然の予断」として非難していた仮説という方法を用いざるをえなかった、というのです。しかしベーコンはせっかく新しい仮説の方法を自ら試みていながら、その仮説の方法を応急策として用いているにすぎないので、それはかれの方法論的思想に何ら本質的な影響を及ぼすことはなかった、といえるでしょう。

それどころか、つぎに引用する科学的方法に関するベーコンのよく知られた所見はいま述べたかれの仮説の方法とは相容^{あい}れない、といわなくてはならないでしょう。ベーコンは科学的発見のためにかれが提案する方法（帰納法）とはどういうものでなくてはならないかということについて、巧みなたとえを使って、こう述べています。「諸科学の発見のためにわたくしが提案する方法は、知力の鋭さや強さに頼るところがわずかで、どんな知力の差によってもほとんど違いが生ずることがないようにする、そういうものである。というのは、直線^eを引いたりあるいは完全な円を描く際に、ただ手だけでやろうとすると、手の使い方は確かだ熟練を要するが、しかし定規やコンパスを使えば、そのような必要はほとんどあるいはまったくなく、わたくしの方法もそのような必要のないものである」。この所見は、ちょうど定規やコンパスを使えば、手運びに熟練した人でもそうでない人でも、ほとんど差がなく一様に正確に作図ができるように、ベーコンの帰納法はそれを用いれば知力の優劣にかかわらず誰もが等しく規則的に正しい仮説を形成し真理を発見することができるような、そういう方法でなくてはならない、と唱えているように読みとれます。

ラッセルがかれのベーコン批判のなかで、仮説を形成することが科学的な仕事のなかでもっとも難しく、偉大な能力が不可欠となる部分であり、「**A**」^a「というものは存在しない、と述べているのは、いま引用したベーコンの帰納法の考え方を指して批判したものでしょう。すぐれた仮説や理論というものは科学者たちの卓越した知力や創造力によって考え出されるものである、つまり科学的な仕事のなかでとくに仮説を形成する過程は科学者たちの知力や創造力の差がもっとも^イケンチヨ^イにあらわれる

部分である、といえるでしょう。ベーコンがかれの熱の原因の探究において自ら示しているように、科学的仮説というものは「**B**」によって考え出されるものであり、精神の自由な想像力によってソウアン[□]されるものです。

ところで、うえに引用したベーコンの帰納法に関する所見はかれの有名な四つのイドラ（偶像）に関する所論において、最後の「劇場のイドラ」（または学説のイドラ）について論じているところで述べられていて、つまりこの所見はアリストテレスの学説、スコラ神学など、思弁哲学の伝統を強く意識して述べられたものである、ということがわかります。したがってその文脈からわかりますように、このベーコンの所見は、経験に十分基礎をおいて考えようとはせず、ただ権威や伝統に盲従し、あるいは個々の哲学者たちの知力や学識を誇示するだけにすぎない思弁哲学と、それとはまったく違う新しい科学の進歩の条件とを対比させているのです。そしてこの対比によってベーコンがいわんとしていることは新しい科学の進歩の条件は何よりもその方法にあるということであり、思弁哲学者たちと新しい科学の発展にキヨ^ハする科学者たちの違いは知力の優劣の差にあるのではなく、かれらが用いる方法の違いにある、ということでしょう。ですから、問題のベーコンの所見をその文脈を考えずにジギ^ニ通りに解して、かれは科学的発見を機械的に行うことを可能にするような方法、つまりそれを用いれば卓越した知性は必要なく誰もが新しい自然法則の発見者になりうるような、そういう方法を発明したと思ひ込んでいた、と非難するのは誤解であり、「またこれは科学的方法の改革者としてのベーコンに浴びせられるもつとも中傷的な批判の一つなのである」、という指摘もあります。

しかしこのように思弁哲学の伝統を強く意識しつつ新しい科学の方法について論ずる場合、ベーコンがとくに強調したいことは、もちろんかれがいう帰納法は実験と観察にもとづく客観的で、実証的で、かつ確実な方法でなくてはならないということでしょう。そしてこのベーコンの方法概念はたしかに革命的であり、科学方法論的思想における大きな進歩であることはいまでもありません。しかし一方、まえにも述べましたように、ベーコンが帰納的探究を方向づけ導くための仮説についてその積極的な意義と役割を認めようとしなないのは、帰納法に先立って考え出される仮説というものは十分な経験に基礎をおかないたんなるオクソク^ホにもとづく「自然の予断」であり、そのような予断的仮説を用いますと、科学的方法の客観性、実証性、確実性を危うくする恐れがあるという理由によるものと考えられます。

*ペーコン……十六、七世紀のイギリスの科学者、哲学者、政治家。イギリス経験主義の祖とされる。

*燐光^{りんこう}……(たとえば海中生物が)蓄えた光を発する現象。

*イドラ……実験・観察において、人間が持ちやすい錯誤や先入観。一般に「偶像」と訳される。

問一 傍線部 a の理由として最も適当なものを次の選択肢から選び、その番号を記せ。

1 帰納法は事例を多く集めて一般化するものだが、そのためには事前には事前に不適当な事例を除外しなければならないから。
2 帰納法は事例を肯定と否定に分けていくものだが、中にはどちらにも分けられないものがあるから。

3 帰納法は事例を多く集めて一般化するものだが、いくら熱の事例を集めても分子間の運動は観察されないから。

4 帰納法は事例を肯定と否定に分けていくものだが、十分な数の否定的事例を集めるのは困難であるから。

5 帰納法は事例を多く集めて一般化するものだが、分子間の運動を観察するために事例の収集は不要であるから。

問二 傍線部 b の内容を最も具体的に述べた箇所を本文から五十字で抜き出し、最初と最後の三字を記せ(句読点を含む)。

問三 (ア)(イ)に入る言葉として最も適当なものを次の選択肢から選び、その番号を記せ。

1 証拠 2 結果 3 原因 4 欲望 5 秩序 6 精神

問四 (ウ)(エ)に入る言葉として最も適当なものを次のそれぞれの選択肢から選び、その番号を記せ。

ウ 1 画然 2 画策 3 画一 4 画期 5 画尺

エ 1 先陣 2 前方 3 先鞭^{べん} 4 前段 5 先駆

問五 傍線部 c について。ペーコンは「課題を暫定的に解」くために、「仮説の方法」をどのようなものとして用いたか。それを言い表している言葉として最も適当なものを本文から三字で抜き出して記せ。

問六 傍線部dを言い換えたものとして最も適当なものを次の選択肢から選び、その番号を記せ。

1 ベーコンは、熱の原因が微分子間の運動とは考えなかった

2 ベーコンは、帰納法こそが科学の方法であるという考えを見直さなかった

3 ベーコンは、帰納法が事例の列挙に基づくという定義を改めなかった

4 ベーコンは、仮説の方法が暫定的なものであるとは考えなかった

5 ベーコンは、定規やコンパスを使わず、手で直線や円を描いた

問七 傍線部eの比喻によつてベーコンはどのようなことを強調したかったのか。傍線部より後の本文から読み取れることとして最も適当なものを次の選択肢から選び、その番号を記せ。

1 思弁哲学の学説は、哲学者個人の知力や権威によつてさまざまにゆがめられるため、科学の進歩のためには誰でもが真理に至るような客観的な方法が必要である。

2 近代以前は、科学者たちの卓越した創造力によつて仮説を考えていたが、科学の発展のためには、誰もが一定の手続きで仮説が形成されるようにしなければならない。

3 スコラ神学には自由な批判精神がなく、権威を誇示することが慣例となっていたため、より経験に基づいた批判を展開するためには熟練した思想形成が必要である。

4 アリストテレス以来の思弁哲学は、経験に基づいた方法によつて哲学的議論がなされるため、科学の進歩には個々人の経験に基づかない確実な方法が必要である。

5 近代以前の実験の方法は、熟練の度合いによつて結果が異なっていたため、科学の発展のためには、実験を機械的に行えるようにしなければならない。

問八 空白部Aに入る言葉として最も適当なものを次の選択肢から選び、その番号を記せ。

- 1 仮説を知力にしたがって発明することを可能にするような方法
- 2 仮説の優劣を知力にしたがって判定することを可能にするような方法
- 3 真理を規則にしたがって発見することを可能にするような方法
- 4 仮説を規則にしたがって発明することを可能にするような方法
- 5 仮説の優劣を規則にしたがって判定することを可能にするような方法

問九 空白部Bにはベーコンの言葉が入る。最も適当な言葉を本文から五字で抜き出して記せ。

問十 本文の内容に合致するものを次の選択肢から二つ選び、その番号を記せ。

- 1 ベーコンは事例の列挙による帰納法を重視したが、熱の解明には同時に仮説的方法も用いていた。
- 2 事例を列挙していく帰納法と、観察データの説明を目指す仮説的方法是、相容れないものである。
- 3 ベーコンは列挙による帰納法によって科学に進歩をもたらしたが、同時に作図の技術も重視していた。
- 4 ベーコンの時代には、科学と哲学がはつきりと分かれず、自然に関する法則も哲学的議論の対象であった。
- 5 ベーコンが仮説的方法に意義を認めないのは、それが科学の客観性や実証性を損なうと考えたからである。
- 6 中世ヨーロッパにおいては自然法則も神学の一部であり、ベーコンの提唱する帰納法は教会から批判された。

問十一 傍線部イ、ホを漢字に直し、正確に記せ。

〔二〕

次の文章は出家した藤壺の宮に光源氏（大将）が対面する場面である。これを読んで、後の設問に答えよ。

故院^{*}の皇子たちは、昔の御ありさまを思し出づるに、いとどあはれに悲しう思されて、みなとぶらひきこえたまふ。大将は立ちとまりたまひて、聞こえ出でたまふべき方もなく、くれまどひたまへど、^aなどかきしも、と人見奉るべければ、親王など出でたまひぬる後にぞ、御前に参りたまへる。

やうやう人静まりて、女房ども、鼻うちかみつ、所どころに群れゐたり。月は限^bなきに、雪の光りあひたる庭のありさまも、昔の事思ひやらるるに、いとたへがたう^ア、いとよう思ししづめて、^c「いかやうに思し立たせたまひて、かうにはかには」と聞こえたまふ。「今はじめて思ひたまふる事にもあらぬを。^{*}もの騒がしきやうなりつれば、心乱れぬべく」など、例の命婦して聞こえたまふ。御簾の内のけはひ、そこら集ひさぶらふ人の衣の音なひ、しめやかにふるまひなして、うち身じろきつつ、悲しげさの慰めがたげに漏り聞こゆるけしき、ことわりにいみじと聞きたまふ。風はげしう吹きふぶきて、御簾の内の匂ひ、いともの深き黒方にしみて、名香の煙もほのかなり。大将の御匂ひさへ薫りあひ、^eめでたく、極樂思ひやらるる世のさまなり。^{***}春宮の御使も参れり。のたまひしさま思ひ出できこえさせたまふにぞ、御心強さもたへがたくて、御返りも聞こえさせやらせたまはねば、大将ぞ言加へ聞こえたまひける。

誰も誰も、あるかぎり心をさまらぬほどなれば、思すことどももえうち出でたまはず。^g

「月のすむ雲ををかけてしたふともこのよの闇になほやまどはむ^イ

と思ひたまへらるこそ、かひなく。思し立たせたまへるうらやましさは、限りなう」とばかり聞こえたまひて、人々近うさぶらへば、さまざま乱るる心の中をだに、え聞こえあらはしたまはず、いぶせし。^ウ

「おほかたのうきにつけては厭へどもいつかこの世を背きはつべき

かつ濁りつつ」など、かたへは御使の心しらひなるべし。あはれのみ尽きせねば、胸苦しうてまかでたまひぬ。^ハ

問四 傍線部cの口語訳として最も適当なものを次の選択肢から選び、その番号を記せ。

- 1 どのようにお考えになって、このように急に出家なさったのですか
- 2 いかんともしがたくお思いになって、お墓を作られるのですね
- 3 いかんともしがたく思い申し上げて、こんなに急に出家したのです
- 4 どのようにお考えになって、この庭を作らせなさったのですか
- 5 昔のことが思い出されて、庭の様子を見てもらえないのです

問五 傍線部ア、ウの敬語の説明として最も適当なものを次の選択肢から選び、その番号を記せ。

- 1 話し手である光源氏自身に対する自敬表現
- 2 話し手である藤壺の宮自身に対する自敬表現
- 3 光源氏から藤壺の宮への敬意を表す尊敬語
- 4 藤壺の宮から光源氏への敬意を表す尊敬語
- 5 光源氏から藤壺の宮への敬意を表す謙譲語
- 6 藤壺の宮から光源氏への敬意を表す謙譲語

問六 傍線部dの文法的説明として最も適当なものを次の選択肢から選び、その番号を記せ。

- 1 下二段活用「乱る」の未然形＋完了「ぬ」の連体形＋推量「べし」の連用形
- 2 下二段活用「乱る」の未然形＋打消「ず」の連体形＋推量「べし」の連用形
- 3 下二段活用「乱る」の連用形＋完了「ぬ」の終止形＋推量「べし」の連用形
- 4 四段活用「乱る」の未然形＋打消「ず」の連体形＋推量「べし」の連用形
- 5 四段活用「乱る」の已然形＋完了「ぬ」の終止形＋推量「べし」の連用形

問七 傍線部 f の理由として最も適当なものを次の選択肢から選び、その番号を記せ。

- 1 高貴な薫物の香りが部屋中に満ちて、極楽にいるような気分だったから。
- 2 自分の子である春宮の様子を思い出し、使いと交わす言葉が見つからないから。
- 3 自分の子である春宮のふるまいに憤りを感じて、どのように注意すべきかわからなかったから。
- 4 宮中では忙しそうに人々が剃髪^{ていはつ}の準備をしており、言葉をかける余裕もないほどだったから。
- 5 風が激しく吹くことによつて、さまざまな香りが部屋を満たし、気分が悪くなっていたから。

問八 傍線部 g の解釈として最も適当なものを次の選択肢から選び、その番号を記せ。

- 1 生きている限りは、安心することはないので
- 2 そこにいる人はみんな、心が落ちつかない時なので
- 3 生きている人はみんな、誰かが助けてくれるので
- 4 そこにあるものは全て、魅力的なものなので
- 5 そこに仕えている人はみんな、憤りを感じていたので

問九 傍線部 h を十五字以内で口語訳せよ。

問十 傍線部 j「御使の心しらひ」は御付きの者の心配りを言うが、「御使」の一人を具体的に述べている箇所を本文中より抜き出して記せ。

問十一 本文中にある和歌の下句「このよの闇になほやまどはむ」は、「源氏物語」が書かれる以前に成立した勅撰集の入集歌「子を思ふ道にまどひぬるかな」(藤原兼輔)を踏まえている。この歌が入集した勅撰集として適当なものを次の選択肢から選び、その番号を記せ。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|--------|-------|
| 1 兼輔集 | 2 万葉集 | 3 山家集 | 4 新古今集 | 5 後撰集 |
|-------|-------|-------|--------|-------|

一般選抜(前期日程)

●人文学部(文化学科, 東アジア地域言語学科) ●経済学部(経済学科) ●商学部第二部(商学科)
●医学部(看護学科) ●スポーツ科学部(スポーツ科学科)

⑫

B

二〇二六年度

国

語

問題冊子(二～二一ページ)

注意事項

- (一) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (二) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (三) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (四) 解答用紙左下に印刷してある受験学部・学科コード、受験番号、氏名(カタカナ)を確認し、氏名欄に氏名(漢字)を記入すること。もし、印刷に間違いがあった場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。

〔解答用紙記入例(選択式の場合)〕

例一:〔語群〕が二桁で

11	大阪
12	佐賀
13	長崎
14	東京
	とある場合

例二:〔語群〕が一桁で

1	大学
2	中学校
3	高校
4	小学校
	とある場合

問 X	
16 / 2	A
18 / 4	B
20 / /	C

Aの解答が佐賀の場合
Bの解答が東京の場合
Cの解答が大阪の場合

問 X	
51 /	a
52 4	b
53 2	c

aの解答が大学の場合
bの解答が小学校の場合
cの解答が中学校の場合

〔一〕

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

いつの時代、どの地域においても、人びとに恐れや畏れを抱かせることができるとは存在する。それをあらわす語彙のひとつが「怪異」である。

しかし、具体的にどのようなできごとを人びとが恐れるかは、刻々と変化する。ある時代に恐れられてきたことは、次の時代には、^a学問や技術の発達によって説明できるようになり、ほとんど恐れる必要がなくなる。

たとえば、古代から中世においては、ある海域で水難事故が多発すれば、人びとはその原因を、河海の神の怒りであると考え、港町に神社や寺院を建立して、無事を祈るほかなかった。

また、伝染病がモウイ^イをふるえば、人びとは外部から疫鬼^{えきき}がやってきたとか非業^{ひじょう}の死を遂げた権力者が怨霊^{おんりょう}となって祟^{たた}つていると考えて、疫鬼を追い出したり怨霊を鎮撫^{ちんぶ}したりするためのさまざまな儀礼をおこなった。

そうして危機感が高まっているときに、神社や寺院で、神体や本尊が倒れたり地鳴りがしたりすれば、人びとはさらに恐れを抱いた。不安にかられた人びとの信仰のよりどころとなった神社や寺院は、みずからのユイシヨ^ロや霊験を、大規模な祭礼や美しい絵巻物などで表現することで、いつそう信仰を集めた。

しかし、時代とともに航海技術が発展したり気象分析が進んだりすることによって、人びとはしだいに水難事故を避けられるようになり、ついにはその原因を突きとめるにいたった。また、医学が発達し、予防手段や特効薬が発見されることによって、伝染病は、人びとにとって手のつけられぬ脅威ではなくなった。

そうになると、人びとは、直接にはなんの関係もない神や怨霊に原因を求め、恐れを抱いていた過去の時代を、非合理的とみなすようになった。一方で、切実な信仰は失われても、祭礼や絵巻物など、華やかなエンターテインメントというかたちで残されたものは、現代にいたるまで人びとを惹^ひきつけている。

現代のわれわれが「怪異」と聞いたときに、

A

なもの、あるいは趣味や娯楽というイメージを抱くのは、このようにし

て、時代を経ることに人びとが恐れるものが一つひとつ克服され、エンターテインメントの要素だけが残ってきたからであろう。

しかし、ここで注意したいのは、たとえ同じ時代であつても、すべての人びとが同じものを恐れていたわけではないことである。

それは、迷信深い者は恐れたが、合理的な判断のできる者は恐れなかった、などという単純な問題ではない。あるできごとを恐れるか否かは、それにまつわる知識や情報をどれほど、そしてどのように得られるかという問題を、直接に反映する。

現代のわれわれに置き換えて考えてみよう。われわれは、自分自身で説明しきれない現象を、神仏や怨霊のせいだと思うことはまずないだろう。しかし、知識や情報がますます専門化してゆくなかで、たとえ「科学的根拠」を示されたとしても、個々人では即座に判断がつかないということは多くある。むしろ、複数の立場から「科学的根拠」が示されるなどして、知り得た情報が増えれば増えるほど、いっそう混乱することさえある。そして、そうしてあふれかえった情報が、匿名実名の入り交じったインターネットの上でてんでに拡散されて、社会に影響を与えるという状況は、覚えがあるのではないか。

過去においても、そうした感覚は同じである。そして、どのような人びとがいかにして知識や情報を得るかという問題は、それぞれの時代の社会構造と密接に結びついていた。同じ時代を生きる人びとであっても、ある者は先端的な技術や蓄積された知識・情報を^ハシヨウアク^ハすることによって、あるいはなにかの権威を（１）に着ることによって、あるできごとを、自分自身では恐れることなく、ほかの人びとに恐れさせるように「しかけ」ていた。

それにはたいし、ある者は、知識や情報に限定的にしかアクセスすることができず、しかけられたとおりに受けとつて恐れるほかなかった。またある者は、みずからさまざまな情報のデータベースにアクセスすることはできたが、恐れを払拭するのではなく、「過去にも同じような事態があつた」など、恐れをさらに補強するような情報を探し、危機感を増幅させていた。

知識や情報をめぐるこのようなギャップは、利用しようとするれば、きわめて戦略的に利用することができたのである。

怪異とは権力の問題である、^ニというトウトツに聞こえるかもしれない。しかし、人を動かす力を、広い意味で「権力」と呼

ぶのならば、まぎれもなく、歴史上に起きた怪異、つまり「人びとがなにを恐れるか」という問題は、権力の問題なのである。

事実、日本史上に記録されている怪異の多くは、政権中枢と密接に結びついている。

たとえば、飢饉^{ききん}や伝染病^{まんえん}の蔓延^{まんえん}が起きると、つい最近失脚した誰彼の怨霊^{うわさ}のしわざだという噂^{うわさ}、政権関係者の周辺に火の玉や化鳥^{けちよう}といった恐ろしいものが飛んだという噂^{うわさ}が立った。また、戦乱への緊張感が高まると、神々がヒョウジョウウをして政権を見捨てることにしたらしいという噂^{うわさ}が立った。こうした噂は、すでに動揺している社会に、いっそうの不安をあおった。

そして、明治維新より以前の社会において、怪異とは、単に説明しきれない恐ろしいできごとであるのみならず、さらにそれ以上の凶事が起きる前触れであると考えられてきた。そのため、人びとは、なにかひとつ凶事があると、それ以前になにごとか前触れはなかっただろうかとさかのぼって怪異を探しまわったため、不安はますます増殖した。怪異を前触れとするさらなる凶事が起きないように、寺社は、神仏や怨霊への直接的な窓口として、その怒りや祟りを鎮める儀式をおこなうのだが、政権はそれを、タテマエとしては「必ず」バックアップしなければならなかった。

というのは、明治維新以前の社会においては、「神仏が国家を守る」という前提があったからである。つまり、神仏の怒りや怨霊の祟りを鎮める最終的な責任は、政権にあった。この前提のもと、それぞれの時代の政権と結びついた大寺社は、国家鎮護や天皇・将軍の身体護持をおこない、その見返りに有形無形の政治的・経済的利益を受けてきたのである。

1

しかしもちろん、すべての寺社がそうした扱いを受けられるわけではない。多くの寺社のなかから、（2）ひとつ抜きんでて政権と強く結びつくため、そして社会から注目されるために、個々の寺社はさまざまな戦略をとった。

2

たとえば、寺社の来歴には、歴史上の有名人との結びつきや霊驗あらたかなでことが、華やかに織りこまれている。聖徳太子や菅原道真、空海などの著名人が建立にかかわったとされる寺社が各地にあるが、その建立譚^{たん}をくわしく検討すると、どう考えてもその人物はその地域に行っていないとか、建立された時代にそもそも生きていなかったとか、あるいは当の人物の死後

のお告げと称した物語であるなどと、縦横無尽にふくらまされていることが多い。

3

怪異もまた、寺社にとって非常に重要な戦略の道具であった。寺社の修繕や祭礼ができないとき、または寺社が当事者となる裁判で勝てそうもないとき、寺社は「このような不当な扱いを受けることにたいして神仏が怒っており、社会にさらなる凶事をもたらす前触れとして、このような怪異を起こしているのだ」という主張をおこなって、政権から、修繕や祭礼のための費用や、勝訴判決を引き出そうとしたのである。いわば寺社は、みずからの存在をアピールするために、怪異の原因として、そしてそれを解決する役として、積極的に立候補したのである。

B

の側は、「国家は神仏によって守られる」というタテマエからも、そして目の前の社会の不安を解決しなければならぬという実際の必要性からも、こうした主張を受け入れなければならなかった。

4

つまり、怪異とは、前近代の知識の水準ではまならぬことや理解できないことを、人びとがやみくもに恐れたというだけのものではなかった。それは、さまざまな生々しい政治的・経済的な目的をもって利用され、政権や社会を動かすものだったのである。

5

いつの時代も、政治や経済は、きわめてシビアな世界である。目の前で起きている戦乱、飢饉、流行病、戦死者の鎮魂、対外危機など、それぞれの時代が直面した最重要課題はさまざまである。政権や社会にとって差し迫った課題とうまくリンクして、的確にアピールすることができた怪異は、広く受容されて目的を遂げた。一方、リンクしそこねたもの、そもそも政権とのアクセスをもてなかったものは打ち捨てられた。怪異もまた、

C

にさらされていたのである。

——高谷知佳『怪異』の政治社会学』による——

問一 傍線部 a について。本文中での「学問や技術の発達」の結果として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 寺社の神体や本尊を倒すような振動を検知できるようになった
- 2 水難事故の原因や伝染病の予防手段が発見されるようになった
- 3 霊験を描いた絵巻物の美術的価値が評価され人びとを惹きつけるようになった
- 4 水難事故が起こるような河海の近くの港町にも寺社を建設できるようになった
- 5 かつての祭礼には不安な人々の心を鎮める効果があると知られるようになった

問二 空白部 A にあてはまる最も適当な言葉をこれより前の本文中から四字で抜き出して記せ。

問三 傍線部 b について。「同じ時代であっても、すべての人びとが同じものを恐れていたわけではない」とあるが、その理由として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 同じ時代の人びとであっても、物事を恐れるかどうかを左右する知識や情報を等しく有していたわけではないから。
- 2 同じ時代の人びとの中でも、物事を恐れずに済むための科学知識は権力者の許可を受けた者しか得ることができなかったから。

3 過去の社会も、迷信深くて恐れやすい者と合理的な判断ができて恐れない者が混在する複雑なものであったから。

4 過去の社会においては、どの立場の人びとから科学的根拠を示されるかによって恐れる怪異の種類は異なっていたから。

5 同じ時代の人びとであっても、怪異を恐れる者もいれば趣味や娯楽として楽しむための知識を有していた者もいたから。

問四 (1) (2) にあてはまる最も適当な言葉をそれぞれひらがな二字、ひらがな三字で記せ。

問五 傍線部 c について。「寺社は、神仏や怨霊への直接的な窓口として、その怒りや崇りを鎮める儀式をおこなう」とあるが、本文によれば、この行為は前近代の人びとが怪異に対して持っていた認識に基づくものである。その認識を最も端的に述べている一文を本文中から抜き出し、最初の五字を記せ(句読点を含む)。

問六 本文は次の一文から成る段落を欠いている。この段落が入る最も適当な箇所を ① ⑤の中から選び、その番号を記せ。しかし、政治的・経済的な目的をもって発信された怪異のすべてが、そのまま権力や社会に受容され、狙いを果たしたわけではない。

問七 空白部 B に当てはまる最も適当な言葉を直前の段落中から抜き出して記せ。

問八 傍線部 d について。「さまざまな生々しい政治的・経済的な目的をもって利用され」とあるが、その本文中の具体例として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 寺社が修繕費や祭礼の開催費を募るため、神仏が怪異により被害を受けていると権力者に訴えかけること。
 - 2 時代が直面する問題から人々の目を背けさせるため、「神仏が国家を守る」という怪異譚を寺社が流布させること。
 - 3 人びとの心を操るため、怪異とは近代の知識の水準でもままならない恐ろしい存在であると寺社が主張すること。
 - 4 寺社が裁判でよい結果を得るため、人びとが恐れている怪異の出現を主張して自らその解決役として名乗り出ること。
 - 5 寺社が創建年代をより新しく見せるため、年代的には合わない著名人にまつわる怪異を建立譚の中に組み込むこと。
- 問九 空白部 C にあてはまる最も適当な言葉を次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- | | | | | |
|------|---------|--------|--------|---------|
| 1 汚染 | 2 消滅の危機 | 3 好奇の目 | 4 生存競争 | 5 白日のもと |
|------|---------|--------|--------|---------|

問十 本文の内容に合致するものを次の選択肢の中から二つ選び、その番号を記せ。

- 1 怪異と権力は無関係に見えるが、権力を広い意味で捉えたと両者は実は密接な関係を持っている。
- 2 現代において怪異は寺社からインターネット空間にその存在の場を移し、人びとの恐れの対象となっている。
- 3 怪異は人びとに恐れを抱かせるものであったが、現代人にとってはもはや一つのエンターテインメントとなっている。
- 4 現代人は前近代の人びととは違って多くの情報を得られるので、様々な局面で即座に正しい判断を下すことができる。
- 5 前近代における寺社の多くは、戦争や疫病といった社会的な課題を解決するために国家によって建立されたものである。

- 6 寺社が現在も祭礼を行っているのは、前近代社会のタテマエを守り続ける存在であることをアピールするためである。

問十一 傍線部イ、ホを漢字に直し、正確に記せ。

〔二〕

次の文章は、後醍醐天皇とその后に関する話Aと、後醍醐天皇と別の女性に関する話Bの二つの部分に分けられる。読んで、後の設問に答えよ。

A

今の上は、はやうより、西園寺の入道大臣の末の御娘、兼季の大納言の一つ御腹にものし給ふを、忍びて盗み給ひて、わくかたなき御思ひ、年にそへてやむごとなうおはしつれば、いつしか女御の宣旨など聞こゆ。程もなく、やがて八月に后だちあれば、入道殿も、^{よはひ}齡の末にいとかしこくめでたしと思す。^{＊＊}北山にまかで給へる頃、行幸あり。八月十五日の夜、名をえたる（1）も、ことに光をそへたる所が折からおもしろく、めでたきことども花やかなるに、御姉の永福門院より、今の后の御方へ、御消息聞こえ給ふ。

こよひしも雲井の月も光そふ秋のみ山を思ひこそやれ

御返しは、「^cまろ聞こえむ」とのたまはせて、内の上、

むかし見し秋のみ山の月影を思ひいでてや思ひやるらむ

帝のおなじ御腹の前齋宮も、皇后宮に（2）給ふ。御母准后も院号ありて、談天門院とぞ聞こゆめる。よろづ花やかにめでたき事どもしげう聞こゆ。

B

内には、万里小路大納言入道師重といひし娘、大納言の典侍とて、いみじう時めく人あるを、堀川の春宮権大夫具親の君、いと忍びて見そめられけるにや、^fかの女、かき消ち失せぬとて求めたづねさせ給ふ。

二、三日こそあれ、程なくその人とあらはれぬれば、上、いとめざましく憎しと思す。ⁱやむごとなき際にはあらねど、御覚えの時なれば、厳しく咎めさせ給ひて、げに須磨の浦へもつかはさまほしきまで思されけれども、さすがにて、官みなとどめて、いみじう勘ぜさせ給へば、かしこまりて、岩倉の山庄にこもりぬ。花の盛りにおもしろきをながめて、

^j憂きことも花にはしばし忘られて春の心ぞむかしなりける

典侍の君は帰り参れるを、つらしと思すものから、「憂きにまぎれぬ恋しさ」とや、いよいようたがらせ給ふを、さしもあらず

 正身はなほ好き心ぞ絶えずありけむかし。

たえはつる契をひとり忘れぬも憂きも我が身の心なりけり
 とて、ひとりごたれける。

—[増鏡]—

* 今の上……………後醍醐天皇。

* * 北山……………永福門院と今の後の実家。

* * * 正身は……………当人は。

問一 傍線部 a・b の主語は何か。適当なものを次の選択肢の中からそれぞれ選び、その番号を記せ。

- | | | | | | | | | | | | |
|---|----|---|-----|---|----------|---|------|---|--------|---|------|
| 1 | 作者 | 2 | 今の上 | 3 | 西園寺の入道大臣 | 4 | 末の御娘 | 5 | 兼季の大納言 | 6 | 永福門院 |
|---|----|---|-----|---|----------|---|------|---|--------|---|------|

問二 (1) にあてはまる最も適当な言葉を本文中の和歌から抜き出し、漢字一字で記せ。

問三 傍線部 c を十字以内で現代語訳せよ。

問四 (2) には動詞「たつ」と尊敬の助動詞「す」が接続したものが入る。適当な形に活用させてひらがなで記せ。

問五 傍線部 d・e・h の意味として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

d					e					h				
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
控えめに	簡潔に	しきりに	きれぎれに	声高に	寵愛されている	年老いている	軽率である	うきうきしている	流行に敏感である	明らかに	おそろしく	心配で	うらやましく	気に食わず

問六 傍線部 f の文法的説明として適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

1 格助詞「に」＋係助詞「や」

2 完了の助動詞「ぬ」の連用形＋係助詞「や」

3 完了の助動詞「ぬ」の連用形＋間投助詞「や」

4 断定の助動詞「なり」の連用形＋係助詞「や」

5 断定の助動詞「なり」の連用形＋間投助詞「や」

問七 傍線部 g について。これは女性が姿を消す原因となった男性の正体が判明したことを示している。その男性を具体的に指す言葉を B の本文中から四字で抜き出して記せ。

問八 傍線部 i について。これは「源氏物語」による表現である。「源氏物語」より後に成立した作品を次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

1 懐風藻

2 万葉集

3 宇治拾遺物語

4 竹取物語

5 日本霊異記

問九 傍線部 j について。これは女性が姿を消す原因となった男性が詠んだ和歌である。「憂きこと」の具体的な内容として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

1 天皇の怒りを買ってしまい今は謹慎生活を送っていること

2 天皇が自分をあまり覚えてくれていなかったこと

3 今を盛りと咲いている花にも必ず散る時が訪れること

4 若かった頃とは違い春が訪れても全く楽しいと思えなくなったこと

5 希望していた土地に赴任することが叶^{かな}わなかったこと

問十 傍線部kの解釈として最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 天皇は戻ってきた女性を薄情な人だと思いいになるが
- 2 典侍の君は女性が見殺しにされたことを恨めしくお思いいになるが
- 3 天皇は岩倉の山庄で一人過ごすことを寂しくお思いいになるが
- 4 典侍の君は戻ってきた女性に再び会うことを気まずくお思いいになるが
- 5 天皇は連れ去られた女性の境遇をかわいそうだと思いいになるが

問十一 本文の内容に合致するものを次の選択肢の中から二つ選び、その番号を記せ。

- 1 天皇と前斎宮と談天門院は、それぞれ母親が異なるきようだであった。
- 2 西園寺の入道大臣の末娘は、父が老境を迎えてから天皇の後となった。
- 3 師重は娘が起こした不祥事の責任をとって自ら須磨への退去を申し出た。
- 4 天皇の后が北山に滞在していた間、天皇はずっと皇居で一人過ごした。
- 5 師重の娘の密通が露見してからも、天皇の彼女への思いは冷めなかった。
- 6 典侍の君は有能な人物であったため、本来死罪となるべきところを軽い処分だけで許された。

一般選抜(前期日程)

●人文学部 ●法学部 ●経済学部 ●商学部 ●商学部第二部(商学科) ●医学部(看護学科)
●スポーツ科学部

⑬

B

二〇二六年度

国

語

問題冊子(二～一〇ページ)

注意事項

- (一) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (二) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (三) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (四) 解答用紙左下に印刷してある受験学部・学科コード、受験番号、氏名(カタカナ)を確認し、氏名欄に氏名(漢字)を記入すること。もし、印刷に間違いがあった場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。

〔解答用紙記入例(選択式の場合)〕

例一:〔語群〕が二桁で

11	大阪
12	佐賀
13	長崎
14	東京とある場合

例二:〔語群〕が一桁で

1	大学
2	中学校
3	高校
4	小学校とある場合

問 X	
16 / 2	A
18 / 4	B
20 / /	C

Aの解答が佐賀の場合
Bの解答が東京の場合
Cの解答が大阪の場合

問 X	
51 /	a
52 4	b
53 2	c

aの解答が大学の場合
bの解答が小学校の場合
cの解答が中学校の場合

〔一〕

次の文章を読んで後の設問に答えよ。

さて、言挙げの方法論を探索する旅路にあって、その最初の一里塚には「言葉それ自体が方法である」と記されている。いいかえれば、何ものであるかはまだわからねども真理がともかくも存在すると信じることにしたとき、その真理に近づくことを可能にする、おそらく人間にとってユイイツの方法が、言葉だということである。ここで真理というのは広い意味においてのことであつて、学問的に究められていく真のみならず、宗教的に求められる善および芸術的に望まれる美をも含んでいる。いずれにせよ、真理とは何かと問うための「仮説」、それが言葉である。仮説にすぎないという意味において言葉は「方法」なのである。

ところで、真理なんぞは存在するわけがないと虚無主義者はいう。そのようにいつてのける人間がどんどん増えているところを見ると、現代は虚無の時代なのだといつてさしあたり間違ひではない。しかしそれは仮象なのだ。現代はまだ、喜ばしいかな、A ところにあるのに、現代人は虚無主義を気取ることについてときの気休めを求めているにすぎない。

考えてもみよう、人が何かを表現「したい」と思うのは、何かを願望すればこそである。その願望のうちに真理に近づきたいという種類のものが含まれていないわけがない。というのも、いかなる表現行為も、言葉を中心にして綾なされる意味の宇宙における、選択行為にほかならないからである。その選択にとって絶対に優越しているような基準などはありえない、しかし同時に、何らかの特定の基準がほかのものよりも優越している、と仮説してかからなければ、何らか特定の表現を選択することができない。選択基準に坎する「より良き」仮説を、たとえ半ば無意識的なものにせよ、不斷に探索すること、それが表現行為の基本だということになる。その探索の果てに待ち構えていると想定されるものを真理（絶対の選択基準）とよぶなら、言語的動物としての人間は真理を願望しつつ生きるしかないことを運命づけられているのだ。

このようにいえばいかにも仰々しいが、私たちの何のヘンテツもない日常生活のうちにもこうしたいわば「真理のドラマ」が刻々と生起しているのである。B、目の前の女性に向かつて、「あなたの話は魅力的ですね」というか「あんたの服はト

レンディだ」というか、それは、場合によってはその男女関係の成り行きに重大な差異をもたらしかねないという意味で、深刻

な選択問題である。言葉は、いかなる単語を選び出し、それらをいかなる文脈に結合するか、という作業の上に成り立つ。数ある(原理的には無数にある)可能性のなかでどれを選択するか、それについての絶対的基準つまり真理を具体的には示しえないという点では、言葉はつねに危機のなかにあり、それゆえ表現はつねに冒険である。しかし^bそれは方向の定かならぬ軽率ではないし、まったくクラヤミのなかににおける妄動なのでもない。仮説にすぎないとはいえ、真理が^{*}那邊にあるかを見定めた上で発せられる、それが言葉である。

いささかならず^c皮肉なことに、「真理なんぞは存在しない」といつつなおも死なずに生きている虚無主義者は、すでに真理に到達したと思ひ込んでいるのではないか。つまり、人間の生における願望系列の究極目標が真理なのであつてみれば、目標がなくなつたということは、その究極点に^た辿りついたことを意味する。ただし虚無主義者が手にした真理は「真理は存在しない」というネガティブなものであるから、彼はただその一語のみを吐きつつ、真理を求める一切の表現にたいして破壊を仕掛けるほか生きる術がなくなる。

これに比べたら^d狂信者の方がまだしもましであろう。彼もまたすでに自称するところの真理に到達しているらしいのだが、何はともあれ真理の存在を認めるというポジティブな^二シセイに立っているため、それと狂信者ならざる者がとりあえずの仮説として打ち出してきた真理(への接近法)とを比較することができる。狂信者との対話は難しかりうが、狂信者の主張する真理とやらを、検討すべき一個の仮説とみなしておけばそれでよいのである。

真理への仮説的探究という一見したところ厄介な、しかし狂信者ならざる者ならばごく当たり前のこととしてこなしている、精神の回路を通らずにすまずには、Cと狂信のほかにも、二通りのやり方がある。一つは、衝動に身を任せることだ。たまさかの気分、思いつきの意見、いきがかりの行動、それらをひつくるめて衝動ということにすれば、衝動の赴くままに表現していれば表現における選択基準について配慮する必要はないということになる。だが、今日の衝動が昨日のそれと異なっており、そして昨日の衝動が何であつたかを記憶している場合、その人の衝動は分裂する。正確には、記憶を通じて過去の衝動が現在の衝動の一部を構成するということになるため、現在は単なる過去の反復であるという因襲の態度に完全にはまっ

ないかぎり、現在の衝動に矛盾、葛藤、背反が生じずにはいない。そして衝動主義それ自体にはそうした亀裂を調整する手立てが備わっていないのである。

また、人間の表現行為はつねに未来志向的なものである。というより、おのれの行為が不確実性に直面していることを意識するため、人間の精神のうちに時間という意識が発生し、それによって過去、現在、未来が区別されるのだというべきかもしれない。いずれにせよ、未来が不確実なものである以上、その不確実性に応じて人間の衝動なるものも不確定性を帯びる。この不確定性のなかでいかに表現を組み立てるか、衝動主義ではその解決策がみつからない。極端なたとえば、戦争が勃発するか平和が維持されるかの瀬戸際にあっては、たまさかの気分、思いつきの意見あるいは行きがかりの行動をとりつづけるわけにはいかないということだ。

D への探究を回避するもう一つのやり方は技術に身を委ねることである。技術は、^ホガンライ、未来の不確実性に挑戦し、それを多少とも確実なものにするためのものである。そうしたものとしての技術を信奉することにより、少なくとも信奉しているかのように振る舞うことにより、衝動における亀裂はテクノマニアックに、つまり技術偏重的なやり方で解決される。しかしこの技術に適応しようとする生き方——それを「^f打算」とよぼう——はけっして首尾一貫したものにはなりえない。なぜなら、様々の技術がありうる以上、どの技術に適応するかという選択問題が残るし、どのような新技術を創造するかという段になると、適応という受動の態度そのものが成り立たなくなる。結局、技術主義の打算による真理からの逃避は、技術が単線的かつ自動的に発達するという、ありえぬ前提を盲信してはじめて可能になるといった程度のものにすぎない。

* 那邊……どのあたり

——西部邁「知性の構造」による——

問一 空白部Aに入る言葉として、最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 虚無からほるかに遠い
- 2 科学が充分発達していない
- 3 虚無が切実な問題になっている
- 4 真理の存在しないことが明らか
- 5 真理についての共通の理解ができていない

問二 以下の文章は傍線部aの意味を説明したものである。空白部に入る最も適当な言葉を本文中より抜き出して、それぞれ漢字二字で記せ。

筆者は、表現は、言葉による選択行為であると考え。選択には、何らかの（1）が必要である。それは、絶対的なものではないので、（2）ではないが、どちらの言葉を選ぶべきかという、言葉の選択をして表現をするためには必要である。より良い（2）を求めていく先には、究極的には、選択の絶対的な（1）である真理があると想定される。だから、表現には、真理に近づきたいという願望が含まれているということができるのである。

問三 空白部Bに入る言葉として、最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 ところで
- 2 たとえば
- 3 しかし
- 4 そして
- 5 もしくは

問四 傍線部bは何を指しているか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 方法
- 2 表現
- 3 単語
- 4 真理
- 5 日常

問五 傍線部 c について。何が「皮肉」なのか、それを説明した最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 真理はないと主張し、真理を求める表現を否定しているということ。
- 2 真理を求めずに生きていくことはできないはずなのに、死なずに生きているということ。
- 3 真理の存在を求めた結果、世界に真理はないという答えにたどり着いたということ。
- 4 真理を否定することで、他者に寛容になって良いはずなのに、そうはなっていないということ。
- 5 真理はないと言いながら、ある意味で真理を知っていると言っているのと同じであるということ。

問六 傍線部 d について。その理由を説明したものとして、最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 狂信者は、真理の存在を認めているので、その点で共感することができる。
- 2 狂信者は、仮にもある真理を示しているので、その主張の反対者と互いに話し合い、調整していくことができる。
- 3 狂信者は、何らかの真理を主張しているので、狂信者ではない者が自分の考えと比較・検討できる。
- 4 狂信者は、合理的判断を超えて、ある主張を信奉しているので、それを反面教師とすることができる。
- 5 狂信者は、自分は真理に到達したと信じているので、それを目標とすることができる。

問七 空白部 C に入る最も適当な言葉を、本文中から漢字四字で抜き出して記せ。

問八 傍線部 e の意味を説明したものとして、最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 衝動主義は、現在の衝動と過去の記憶が衝突したときに、過去の踏襲によって、それを解決しようとする。
- 2 衝動主義は、自由な衝動に身を任せるために、臨機応変な判断をすることができる。
- 3 衝動主義は、常に変化しているので、変化に対応する準備がなかなかできない。
- 4 衝動主義は、常に変化する衝動以上のものを考えないので、それを比較し、調整する基準を持っていない。
- 5 衝動主義は、それまでの記憶を完全に忘れてしまうので、新しい出来事に対して対応できない。

問九 空白部 D に入る最も適当な一語を本文中より抜き出して記せ。

問十 傍線部 f について。ここでいう「打算」の意味を説明したものとして、最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 未来の不確実性を減らすために、技術を信じて従っていく態度
- 2 経済的な利益を最大にするために、効率的に状況を処理していく態度
- 3 内容を考えず、小手先の技術だけで対応する態度
- 4 常に真理の追求を意識して、技術を発展させる態度
- 5 未来に起こりうる可能性を常に受けいれていくとする態度

問十一 次の各項について、本文の内容と合致するものには1、合致していないものには2を記せ。

- 1 真理に到達するためには、文学的な美しい文章を学ばないといけない。
- 2 真理を求めて言葉を選択するということは、普段の生活の中でもおこなわれている。
- 3 言葉は仮説であるから、科学的実験によって検証しなければいけない。
- 4 虚無主義を信奉する現代人は、真理を求める表現を肯定的にとらえている。
- 5 未来に関する重要な選択をする場面で、その場限りの意見や行動に従うようではうまくいかない。

問十二 傍線部イ、ホを漢字に直し、正確に記せ。

〔二〕 次の文章を読んで後の設問に答えよ。

初学抄と申して、清輔朝臣の書きおかれて候ふものにも、「歌を詠まむには、まつ題の心をよく心得べし」と候ふと覚え候ふ。

また、「題の文字を上句に皆詠み果てて、下句には言ひごとの無さに、すずろなることどもを続けたる、いと見苦し」とて候ひき。「ある人、山家卯花と言ふ題にて、『山里の垣ほに咲ける卯の花』と詠みて、未は何と詠むべしとも覚え候はざりけるやらむ、『わきかべぬれる心地こそすれ』と詠みて候ひける、いとをかし」とて候ひき。

それも様によりて、また上の句に題の文字言ひ果てても、苦しからぬことも候ふにや。殊に恋の結び題ども、題の理をあらはさず思はせたることどもを、上手達は詠まれ候ふと覚え候ふ。遇不遇恋と言ふことを、京極中納言定家卿の歌と覚え候ふ、

^d色かはる美濃の中山秋越えてまた遠^eざる逢坂の関

かやうにぞ多く詠^fまれて候ふめる。われらならば、「あうてあはざる恋ぞ」などやうにぞ詠まましと覚え候ふ。

また、皇太后宮大夫俊成卿の歌、臨期^g変約恋と言ふことを、

思ひきやしちの端書き書きつめて B も同じまろ寝せむとは

など詠まれ候ふめり。懸想人の、しぢと言ふ物の上に百夜寝たらば逢はむと契りたる人、九十九夜は障り無く、端にて数を書置きたるに、百夜に当る夜障り出来て、逢はぬことなどは、知らぬ人無きことにて候へば、記すに及ばず。

また、寂蓮と申しける歌よみ「兩人を思ふ恋」といふ題を得て、

津の国の生田の河に鳥もるば身^gを限りとやおもひなりけむ A ^h C

かやうに題の心を、ふるきためしに思ひそへて詠まれたることに、かきつくすべくもあらず。源順が詩に、「楊貴妃歸りて唐帝の思ひ」など作りたる風情も思ひいでられて、やさしう、おもしろくこそ候へ。 C ならではいかでか思ひよらむとぞ覚え候ふ。

* 遇不遇恋……………恋する人のもとにおとずれながら会うことができないこと。

* 臨期変約恋……………約束が成就するという時に、それがかなわなくなること。

* * * しぢ……………牛車の乗り降りの際に使う台。

* * * * まろ寝……………帯を解かず一人に寝ること。

* * * * * 大和物語の婿ふたりのこと……………二人の男に言い寄られ、選ぶことができず、生田川に身を投げた女の物語。

* * * * * 楊貴妃歸りて唐帝の思ひ……………帰るとは、ここでは死ぬこと。楊貴妃が乱で殺されたことを玄宗皇帝が嘆いたとい

う逸話。

問一 傍線部 a の解釈として、最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

1 上の句で題の字を全て使ってしまい、下の句で関係のないことを言ってしまうということ。

2 上の句を読んだ後、下の句でやっと趣きのある句を思いついたということ。

3 上の句でも、下の句でも失敗して、歌の題を理解していなかったことを露呈すること。

4 上の句を詠んでしまった後、言いたいことをなくし、後を続ける気がなくなること。

5 上の句で題の字を全て詠みこみ、下の句を書く時には気が散ってしまうということ。

問二 傍線部 b の説明として、最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

1 垣に花を見つけた時の、残念な気持ちを詠んでいる。

2 花が咲いているのを、壁を白く塗ったようだ、と見たままのことを詠んでいる。

3 壁を塗り直した時の新鮮な気持ちと、花を見た時の気持ちを重ねて詠んでいる。

4 花を見た後、全く違う壁のことを詠んでいる。

5 花の白さが、闇の中の壁を浮き上がらせる様子を詠んでいる。

問三 傍線部 c の解釈として、最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 見苦しいこともあるのではないだろうか。
- 2 困難なことも、ないわけではありません。
- 3 かまわないこともあるのではないだろうか。
- 4 それでもよかったのか、どうか。
- 5 さすがと思わせるほど素晴らしいのではないだろうか。

問四 傍線部 d 「色かはる」というのは何を意味しているのか。最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 草木が紅葉する
- 2 顔色が変わる
- 3 天気が崩れる
- 4 山を境に、周囲の様子が変わる
- 5 世の中が変わっていく

問五 傍線部 e の解釈として、最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- 1 逢坂と会うがかかっている、逢坂の関を遠ざかるというのは、会えなくなること。
- 2 再び秋が逢坂の関にやってきて、一年が過ぎたことに感慨を感じるということ。
- 3 逢坂と会うが掛詞になっており、来年は必ず会おうという約束を思い出すということ。
- 4 逢坂と会うがかかっている、恋人が関を越えていくのを見ているということ。
- 5 秋になって、これまでに何度も越えてきた逢坂の関までの遠い道のりを思うということ。

問六 傍線部 f の文法的意味として、最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|-------|
| 1 | 受身 | 2 | 尊敬 | 3 | 可能 | 4 | 自発 | 5 | 動詞の一部 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|-------|

問七 空白部 A に、「苦し」を適当な形に活用させて記せ。

問八 空白部 B に入る最も適当な言葉をこれより後の本文中から抜き出して記せ。

問九 傍線部 g「身を限り」の意味として、最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- | | | | | | | | | | |
|---|--------|---|--------|---|-------|---|--------|---|-----|
| 1 | 財産をつぶす | 2 | もうこれまで | 3 | 全身全霊で | 4 | 自分たちだけ | 5 | 心から |
|---|--------|---|--------|---|-------|---|--------|---|-----|

問十 傍線部 h の理由を書いている箇所を、本文中より十五字以内で抜き出して、最初の三字を記せ。

問十一 傍線部 i を、十五字以内で現代語訳せよ。

問十二 空白部 C に入る最も適当なものを次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|----|---|----|---|------|---|-----|
| 1 | 上手 | 2 | 定家 | 3 | 唐帝 | 4 | 婿ふたり | 5 | われら |
|---|----|---|----|---|----|---|------|---|-----|

問十三 阿仏尼のこの文章は和歌について論じたものである。同じく和歌について論じた文章として有名な「古今集仮名序」を書いたのはだれか。次の選択肢の中から選び、その番号を記せ。

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|-------|---|-----|---|------|
| 1 | 藤原俊成 | 2 | 藤原定家 | 3 | 後鳥羽上皇 | 4 | 紀貫之 | 5 | 大伴家持 |
|---|------|---|------|---|-------|---|-----|---|------|